

2019年度基本計画書

経営理念

心の中に心を持ち、人に心運び心伝え、五つのわ（和、輪、我、笑、話）の調和を図る

事業方針

1. 施設の社会化に努める
2. 心と心が触れあう信頼の場に努める
3. 豊かで安らぎのある健やかな生活が保障されるよう努める
4. 老人福祉施設として生活援助機能の強化に努める
5. 自立支援機能の強化に努める

行動指針(ケア方針)

4H・4Cの実践

Heart	心を磨く	Communication	情報を的確に捉え伝える
Head	知識・理解を磨く	Contact	接触・接近を図る
Hand	技法を磨く	Conference	会議・協議・相談を図る
Health	健康を磨く	Care	心を配り・心を寄せる・見守を図る

中期目標 (3年) 2017.4.1~2020.3.31

- ・生活環境機能の再構築の取り組み（生活形態に合わせたソーシャル機能の構築）
- ・サービス機能の開発の取り組み（地域社会との協働連携、専門機関との連携）
- ・共同連携機能の構築の取り組み（チーム＜多職種と個人＞運営力、パーソナリティーの向上）

長期目標 (10年) 2017.4.1~2027.3.31

- ・安全、衛生、防災対策の整理・整備（自然災害、感染症、事故対策）
- ・トータルコスト整理、管理対策整備（社会保障制度改正への対応）
- ・介護サービス機能の整理・整備（医療・保健・福祉・介護と地域社会との連携）

2019年度基本方針

ことをただす（質す・正す・覚す）関わりをする（4H・4Cの実践）

覚す	—	ことに気づく理解する関わりすること
質す	—	ことを問うて確かめる関わりすること
正す	—	ことを改め直す関わりをすること

社会福祉法人報徳会 重点施策

- * 基盤になる機能・体制構築の取り組み
 - ・事業組織力の醸成 ・ひとりひとりの専門性（社会性）への取り組み
 - ・事業及びサービスの構造構成と機能の整合
- * サービスの自己管理対策
 - ・サービス自己評価、他サービス機関からの事業評価（ひと・もの・サービス・じかん）検証
 - ・サービス標準化（全体・部門）と専門性並びにサービスの整合性への取り組み
- * 情報共有
 - ・各サービス連携のための記録様式類共通化、情報連動化の再分類
 - ・業務連携のためのサービス項目の整理共有
- * 実施対策の取り組み
 - ・リスクマネジメント範囲の整合
 - ・地域密着型介護サービス外部評価、介護サービス情報公表制度、福祉サービスの第三者評価、認証評価活用による外部公開の取り組み
 - ・防火安全対策及び事業継続計画の構築
 - ・運営基準の基づく内部監査体制の構築

重点目標 サービスの整合性を図り、介護に携わる人として最良の力を地域に還元する

重点事項 ことをただす（覚す・質す・正す）サービスを提供する

＜法人事務局 ・ 事業支援機関＞

＜総務グループ＞

重点目標

- ・ ご利用者、ご家族、機関、職員に関わる事業サポート業務の求められる正確性、迅速度を高め、信頼される業務運営をする

重点事項

- ・ 業務の正確、迅速を図る事務室内の環境整備と業務内容の整理
- ・ 什器備品、設備、光熱費の見える化の管理運用（ソフト活用）する
- ・ 仕事の重要度と優先度を常に把握、開示、連携する業務の組立てをする

業務運営

会計経理業務、庶務業務、人事労務業務の運営管理

理事会 評議員会 評議員選任・解任委員会 地域密着型サービス運営推進会議、第三者委員会

総務グループ会議

＜給食グループ＞

重点目標

- ・ 摂食機能の維持を図るため、栄養ケアの仕組み作りをする

重点事項

- ・ 栄養管理において価格の変動も踏まえ、「安心・安全・堅実」な献立を作成する
- ・ 職員が互いを認め合い、連携し、「情報・気付き・問題点」を全員で協議、解決することで業務を計画的に進める

地域交流、施設機能開放

栄養士給食施設実習

業務運営

栄養管理業務、衛生管理業務、調理管理業務

給食グループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

黒石特別養護老人ホーム

＜特養事業部 介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業＞

重点目標

- ・ いつ、どんな状態にあっても、安心して食べることを楽しみ、食べられないことによる身体トラブルはおこさない

重点事項

- ・ 質の高いアセスメント、口腔ケアの実施を継続し、誤嚥性肺炎のリスクを軽減させる
- ・ 低栄養状態の利用者が、安全に安定して栄養摂取できる食形態を追及する
- ・ 褥瘡管理ガイドライン内容をケアに取り入れ、患部の悪化を防ぎ、新たな褥瘡はつくらせない

行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会

活動 ドライブ 運動会 ショッピング よされ・ねぶた 餅つき 節分 雪だるま作り

地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、訪問理容、訪問販売、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習

インターシップ、職場体験など

業務運営

特養事業部会議 介護グループ会議 ユニットグループ会議、特養事業部ミーティング

サービス担当者会議（カンファレンス）

その他

健康管理（体重測定）（健康診断、結核検診、予防接種）要介護認定調査 長谷川式スケール調査

日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者） 各アセスメント・モニタリング

黒石デイサービスセンター

<在宅事業部 通所・訪問介護・介護予防・日常生活総合事業・福祉事業>

重点目標 ・ひとりひとりの存在を認め、行動を正し、(ことを改め直す関わりをする) 気持ちよい環境をつくる

重点事項 ・ひとりひとり(利用者様、職員)と向き合い、敬意をもって接する

行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会

活動 ドライブ、運動会、夏祭り、外出活動、十五夜おもち作り、ショッピング、新年餅つき、節分(豆まき)、ひな祭り、お菓子作り

地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、散髪ボランティア、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習インターシップ、職場体験など

業務運営

在宅事業部会議 介護グループ会議 ユニットグループ会議 在宅事業部ミーティング
サービス担当者会議(カンファレンス)

その他

健康管理(体重測定) 長谷川式スケール調査 日常生活自立度調査(障害・認知症高齢者)
機能訓練計画見直し 各アセスメント・モニタリング

黒石在宅介護支援センター

<総合ケアマネジメント機関 居宅介護支援・介護予防ケアマネジメント事業>

重点目標 ・時間の持ち方を検討し、限られた時間で効率よく業務を行い、PDCAサイクルを実践してケアマネジメントを行う

重点事項 ・各項目にかかる時間の検証と状況検証を行い、時間配分を改め実施する

地域交流、施設機能開放

介護支援専門員実務講習受講者等実習、社会福祉士実習、担当地区民生児童委員定期交流、サロン運営支援業務運営、介護予防・日常生活支援総合事業(介護予防支援、介護予防ケアマネジメント、介護予防・生活支援サービス支援)

包括的支援事業(総合相談、権利擁護、黒石市地域包括支援センター運営協議会)(認知症総合支援、認知症集中支援、地域ケア会議推進事業「定例勉強会」「連携会議」「ケース検討会議」)
一般介護予防(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)、(転倒骨折予防、認知症予防教室)

黒石市任意事業

認知症高齢者見守事業、在宅要介護高齢者紙おむつ支給券交付、成年後見制度利用支援、福祉用具・住宅改修支援、認知症サポーター養成、地域自立生活支援)

要介護・要支援認定・基本チェックリスト関連(認定調査、認定管理)

介護予防サービス計画、介護予防ケアマネジメントの業務(予防給付、総合事業)

居宅支援関連

(相談受付・実態調査業務、調整業務、各アセスメント・モニタリング、ケアプラン管理・付帯管理
手続業務、サービス担当者会議(カンファレンス))

その他

総合相談窓口(医療、保健、福祉サービス連絡調整)、地域ネットワークの構築・強化、地域密着型サービス運営推進会議、居宅機関会議、総合ケアマネジメント機関会議、他法人居宅介護支援事業所との共同事例検討会

養護老人ホーム景楓荘

<養護事業部 養護・特定施設入居事業>

重点目標 ・利用者自身の思いを表現できること、実現することで、生活機能の向上を図る

重点事項 ・利用者自身の選択できる環境設定と、4Cを実践し、利用者の気持ちに働きかける

行事、日常生活支援

- 行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会、慰霊祭、墓参り
活動 お花見、遠足（春・秋）、運動会、ねぶた・よされ見学、餅つき、節分、花・畑作り
音楽、手工芸、絵手紙、書道クラブ、カラオケクラブ、すこやか体操、大相撲星取り、

地域交流、施設機能開放

- 訪問理容、訪問販売、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習
インターシッ、職場体験など

業務運営

- 養護業部会議 介護看護グループ会議 ユニットグループ会議、養護事業部ミーティング
サービス担当者会議（カンファレンス）

その他

- 健康管理（体重測定）（健康診断、結核検診、予防接種）要介護認定調査 長谷川式スケール調査
日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者） 各アセスメント・モニタリング

黒石ケアサポートセンター

<地域事業部 認知共同生活介護・小規模多機能事業>

- 重点目標 ・安心感と社会とのつながりを感じることができるよう本人に目を向け、その人を中心とした生活を支える多様なサービスを活用し生活を高める
重点事項 ・ひとりひとりの個性や価値を認め合い、お互いを尊重する関わりと「思いを聞く・情報を集める・ニーズを見つける」を実践し、協議し合える環境を作る
・生活機能向上、口腔機能の継続的な実践（評価）をし心身機能の維持を図る

行事、日常生活支援

- 行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会
活動 お菓子作り、お花見、花・畑作り、ショッピング、「わ」の食堂
ねぶた・よされ見学、餅つき、節分、参拝ドライブ、雪だるま作り、外食会

地域交流、施設機能開放

- 認知症介護実践者・リーダー・開設者・管理者研修施設実習、子ども参観日
介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習 インターシッ、職場体験など

業務運営

- 地域事業部会議 ユニットグループ会議 地域事業部ミーティング
サービス担当者会議（カンファレンス） 運営推進会議

その他

- 健康管理（体重測定）（健康診断、結核検診、予防接種）要介護認定調査 長谷川式スケール調査
日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者） 各アセスメント・モニタリング

委員会・職域・会議体・プロジェクト

< リスクマネジメント委員会 >

1. 構成メンバー 船水亮徳 鎌田尋也 三上昭弘 齋藤美子
2. 目的
利用者が安全に生活できるよう、事故発生の防止及び発生時対応の指針に基づき、法人全体での共通施策を策定する。また、ケアサービスにおけるリスクマネジメントの意義について理解を深め、事故ヒヤリハットの検証方法を確立させ、SHELL を活用し多方面での視点を持てるよう啓発を行い、事故防止・再発防止に取り組む
3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日
4. 内容
 - ・事故・ヒヤリハットの検証
 - ・身体拘束廃止に関するチャートの整備
 - ・第三者委員会開催（年2回）
 - ・内部研修（年2回）
 - ・お客さまの声、苦情受け付けチャートの整備
5. 成果

・内部研修

「気付き」をテーマに、グループワークを活用してサービス向上につながる実践過程学んだ。サービス向上に繋がる、ヒヤリハット報告書の件数は平成29年度1件に対し、平成30年度(1月まで)7件と増加している。

・苦情受け付けチャートの整備

苦情受付から対応、公開までのチャートに不明確な部分が多く、総合マネジメント機関と協同してチャート整備を行った。チャート通りの運用までは至っていない。

・法改正に伴う身体拘束廃止に関する取り組みとして、各事業部の役割、リスク委員会の役割を明確にしたチャートの整備をし発信した。各役割通りの運用の評価までには至っていない。

6. 課題

・事故ヒヤリハットの検証チャートについて、現在チャートに沿って運用されておらず、チャート見直しを行い運用が必要。

・身体拘束廃止に係る適正化研修の計画的開催(3ヶ月に1回)。

・苦情チャートに沿った苦情検証と継続的評価が必要。

7. 事業計画

・事故ヒヤリハット検証チャートの見直し実施

・内部研修(2回)実施

・第三者委員会(2回)実施

・身体拘束適正化研修(4回)実施

・総合マネジメント機関と協同して苦情受付チャートに沿った運用状況の確認と評価実施

< 感染衛生対策委員会 >

1. 構成メンバー 福原のぞみ 佐藤久子 吹越智美 工藤晋也

2. 目的 入所者・利用者・職員の安全確保を図るために、菌を持ち込まない、広げないを全職員で徹底し、未然に防止し感染症・衛生・食中毒の予防をする

3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

4. 内容

・職員一人ひとりの衛生管理意識の徹底を図り、感染症の発生を防止するよう委員会活動し、専門性の高いサービスを提供する

5. 成果

・年度内2回の法人内研修を実施。1回目は「初期動作」として、職員ひとりひとりがガウンの着脱動作の確認、感染対応手順の確認を実施し、自身の気付き、振り返りの場となった。

2回目は「初期対応・吐物処理」として、対応の確認、感染物品の整理整頓、対応職員の確認などを通し、初期対応の重要性を伝え、また昨年度より一部変更となった吐物処理を実際に行い「忘れていた。手順を間違っていて覚えていた」等との声が多く、振り返りとなり、また、来年度の課題を抽出できた。

・感染症強化期間へ向けて(見直し、変更など)

以下の内容を検討し、各事業部へ集会や職員会議等で発信。

①感染症初期対応を最新版へ変更

②感染症対応の物品の整理

③緑茶の飲用、うがいへの活用開始

④感染予防強化期間の毎朝の体温測定

⑤面会制限についての見直し(開始～解除まで)

⑥感染衛生対策基本資料の見直し、差し替え

6. 課題

・2回の研修を行ったことで振り返ることができたが、手順の忘れや、不安などといった声が多く、どのようにすれば、実践度が高まるかの検討が必要。

・手順書の内容変更や見直しの時期、内容、時間を定期の設定が必要

・感染症動向の周知や、感染症発症時のメール発信のルール順守。

・委員会の適切な発信、経過状況の把握、各事業部との協力、連携体制の再定義が必要。

・感染衛生対策基本資料の事業部の活用不足。

7. 事業計画

- ・年2回の施設内研修
- ・青森県感染症動向周知
- ・感染強化期間時の、家族や外部へ向けての情報発信のためのホームページの活用
- ・感染症強化期間に向けての手順書や内容などの確認、見直し
- ・法的、改正等を踏まえたマニュアルの内容確認と修正
- ・掃除物品の統一へ向けての見直し

< 人材育成委員会 >

1. 構成メンバー 石澤利圭 雪田栄子 海老名みゆき
2. 目的 ひとりひとりの専門性及び社会性の構築、チーム力の醸成ならびに展開力の構築、職員ひとりひとりが果たすべき役割を理解し行動すること、そして、一定で質の良いサービス提供が展開できるよう研修・実習体系を整備し、法人全体が共通した人材育成に取り組む環境と運用を図る
3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日
4. 内容
 - ・新研修体系の運用チェック機関としての役割整理
 - ・講座全体の計画と運用チェック機関としての役割整理
5. 成果
 - ・基礎講座の受講要件の理解が進み、受講者増に繋がった。
 - ・研修資料を整理し、学びたい、調べたい時、勉強会での使用、活用をできるようにした。
6. 課題
 - ・専門講座の定期開催、内容の整合が不足しており、計画的運用を図るため目的や担当講師についても検討が必要。
 - ・介護支援専門員の増員に向けた養成機会として、学びの場や試験対策などの環境設定が必要。
 - ・各研修の計画、実施、評価について、計画通りに実施できなかった。運用チェック方法の見直しが必要。
7. 事業計画
 - ・専門講座・各研修の運用
 - ・介護支援専門員試験対策のための環境設定
 - ・施設内研修全体の運用チェック方法の見直し

< 職域別 相談支援 >

1. 構成メンバー 菊地望、白鳥麻衣子、浅利文子（八戸序季）（田中良子）
2. 目的 専門性の構築を図る知識と機能の整備によるソーシャルワークの向上（チームアプローチ、多職種連携、組織の課題抽出）
3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日
4. 内容
 - ・契約書類整備運用
 - ・総合ケアマネジメント機関との法的根拠に準じた協同運営
 - ・施設内研修（アセスメントの視点に関する内容での計画と実施）
5. 成果
 - ・サービス利用相談から終了までの流れの整備と手続き書類の整備。各事業部へ共通様式としてファイルを配布設置し、法人共通使用の運用開始をする。
 - ・生活相談員の特性、概要を作成し役割と業務水準の明確化に向け、相談支援職種内で協議し、専門的な分野の幅と根拠法を踏まえ、介護保険法、老人福祉法等の法的根拠に基づいて作成を進めた。
 - ・成年後見人制度、権利擁護についての理解を深めるためレシピを作成。
 - ・介護保険サービスソフトの使用・様式の仕様や内容を再構築。
6. 課題
 - ・生活相談員の特性、概要に基づき、専門性を発揮したソーシャルワークの実践と多様化している世相への対応技術の向上が必要。
7. 事業計画
 - ・施設内研修（業務概要に基づくスキルアップ）

・業務概要(介護支援専門員、生活相談員)の運用チェック

< 職域別 看護 >

1. 構成メンバー 佐藤由華利
2. 目的 看護の診る力を養い、専門性を高める
3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日
4. 内容

- ①業務平準化
 - ・待機体制変更
 - ・日曜日の勤務体制変更
 - ・内服薬保管ワゴンの活用
- ②口腔衛生の充実
 - ・口腔衛生体制に向けての整備
- ③個別機能訓練、生活機能向上連携体制
 - ・看護職間での共通理解

5. 成果

- ①業務平準化
 - ・待機体制変更と実施
職員間での聞き取りを行い、職員間での共通理解と変更について共有。
 - ・日曜日の勤務体制変更。
 - ・内服薬保管ワゴンの使用開始。
- ②口腔衛生の充実
 - ・口腔衛生体制に向けての整備を行い専用ファイル作成し、各事業部へ配布する。
- ③個別機能訓練、生活機能向上連携体制
 - ・手順書を一部整備。

6. 課題

- ①業務平準化
 - ・待機体制の変更と日曜日の勤務体制を変更したが、業務提供内容の共通化や情報連携不足があり、共有体制と仕組みの定着化が必要。
 - ・内服薬保管ワゴンの活用による課題点の整理が必要。
- ②口腔衛生の充実
 - ・口腔衛生管理体制の取り組みの共通理解が不足しており、連携不足の改善が必要。
- ③個別機能訓練、生活機能向上連携
 - ・共通理解が不十分であり、職域間での共通理解、役割の再構築が必要。

7. 事業計画

- ・看護機能の役割を果たすための看護間連携の再構築（記録、情報提供、チェック機能、調整機能）
- ・健康管理、身体管理、精神管理する観察、検証、看護機能の提供（機能訓練、口腔衛生、食事、褥瘡、看取りなど）の再構築
- ・看護の専門性を身体面、疾病面による機能面を多職種と連携した平準化サービスの提供

< 職域別 介護 >

1. 構成メンバー 須藤麻美 小野洋子 今光子
2. 目的 利用者がその人らしい生活を送ることができるよう、介護について根拠を全体に周知し、ひとりひとりが介護の専門性を高める
3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日
4. 内容

- ・介護福祉士養成実習生受け入れ体制整備
- ・介護負担軽減のための物品使用と運用の実用化に向けての取り組み
- ・日常生活使用物品の使用方法の統一化
- ・介護技術専門講座開催
- ・第3回津軽地区介護技術競技会参加
- ・看護と介護の共通視点での整合性を図り、ケア区分別の視点項目を作成

5. 成果

- ・介護福祉士養成実習受け入れの体制整備に沿った講習会（担当者向け）、振返りを定着化する。
- ・介護負担軽減のための物品使用と運用を促進。（スライディングボード、移乗シート）
- ・日常生活、活動支援使用物品の使用方法的の統合に沿った定着化を図る。黒石特別養護老人ホームの舞台上をストア化し、物品管理やコスト面の観点から借用のルールを統一。
- ・2回（1月、2月）の専門講座「座位が変われば暮らしが変わる～シーティングの基礎～」を実施。物品に頼りがちな面が感じられたが、シーティング実施への視点のポイントを周知。
- ・津軽地区老人福祉協会主催の第3回介護技術競技会へ2チーム（4名）出場し、1チーム審査員特別賞受賞している。
来年度、活用できるように運営側・参加者側として案内～当日、振返りまでの流れを整備。
- ・看護と介護の共通視点の整合性を図り作成したケア区分別視点項目を、各チェック表に添付しアセスメントやOJTの際、使用できるようにした。

6. 課題

- ・移乗シート使用後の評価後の導入～展開～評価・検証が必要。
- ・活動使用物品の状況確認（使用できるか否か）、物品の取り出しやすさを考慮したレイアウトを見直し整理。
- ・生活機能維持、向上に向けた新しい介護技術や介護用品を探る。
- ・ケア区分別視点項目実施後の評価までは至らず、日々のケアに専門的な視点で実践できているか、人財育成委員会と評価していく。

7. 事業計画

計画目標 利用者が快適な生活を送れるよう介護の環境（人・物）を整える

- ・実習生の受け入れ（人財の育成）
- ・介護の負担軽減のための介護用品や新しい介護技術を探り、実践へ繋げる

< 総合ケアマネジメント機関 >

1. 構成メンバー 田中良子 八戸序季 白鳥麻衣子 佐藤由華利 奥瀬美智子

2. 目的 総合相談機能支援機能管理

3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

4. 内容 介護保険福祉サービスの利用調整・承認・決裁、より良いサービス適用の視点と情報共有

- ・総合相談の流れ、総合ケアマネジメント機能の確立
- ・地域と繋がる実践事業の取り組み
- ・入所意向確認から入所判定会議
- ・お客様の声（苦情）、介護サービスアンケート、サービス改善について
- ・ベットコントロール（稼働率）利用状況確認、新規登録申込者及び入所入居利用判定
- ・動向と対策

5. 成果

- ・総合相談窓口機能の総合ケアの役割の構築（相談受付ファイルの作成）一部運用を図る。
- ・サロン運営サポートや民生委員との交流を定期的実施し、生活支援体制整備事業の展開に向け支援に取組めた。
- ・サービス利用・入所の申込から判定会議、待機、入所までの対応の流れの見直しを行い、全部門での共通化を図る。
- ・リスクマネジメント委員会と共同し、苦情対応（苦情報告書）のチャートの修正や実際の記録方法の運用を行う。試行期間、見直しと修正を行い本運用に繋ぐ。
- ・サービスの稼働率までは出せたが、ベットコントロール活動までに至っていない。

6. 課題

- ・受付から判定の流れに沿って実施した場合のエラーや不具合の検証が不足。
- ・入所申込者、待機者の意向確認の取り方や待機の返信の確認までの運用が図れていない。
- ・お客様の声やアンケートでの要望等を分析し、サービスに活かせるまでに至っていない。
- ・稼働率、基準値の見直しによる利用者案内の促進に向けた内部・外部へのアプローチ。

7. 事業計画

- ・総合相談窓口と機能運用の継続（多職種協働で支援する取組）

- ・サービスの一般化（苦情や介護サービスアンケート、地域からの声）
- ・サービス課題改善と実施

< 広報活動支援機関 >

1. 構成メンバー
2. 目的 事業活動周知広報
3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日
4. 内容 五つの「わ」の広報企画、作成、HP運営
5. 成果
 - ・ホームページの定期的な更新による情報発信の定着化
 - ・広報誌の計画に沿った作成、発行の定着
6. 課題
 - ・広報誌やホームページ更新作業のための時間確保と情報収集が掲載内容に影響するため、機関の運営方法、内容整理課必要。
7. 事業計画
 - ・ホームページ更新手順の操作習得と定期更新
 - ・パッケージソフトの活用による広報誌、法人のパンフレット作成
 - ・広報誌の頁別内容項目の整理

< 「わ」のカフェ >

1. 構成メンバー 佐々木明子 齋藤美子 浅利文子 工藤恵子 雪田栄子 今光子 田川義則
2. 目的 認知症高齢者、家族、住民への認知症への理解と支援（地域貢献）
3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日
4. 内容
 - ・周知活動（チラシ、ポスター作成、広告誌掲載など）
 - ・年間運営計画作成、実施、評価検証
5. 成果
 - ・参加者、4、5名の定着に繋がった。
 - ・法人内の多職種連携を図り、各講座予定通り実施となった。
 - ・周知活動のためのチラシ、ポスター設置に公民館等の協力を得ることができ、又、津軽新報への掲載や六郷地区民生委員定例会への参加し周知の機会を得る。
 - ・黒石市社協の協力を得ることができ、「あすなろの森」と共同開催している。
 - ・参加者の中からさぼ一た一ずくらぶへの登録となった。
6. 課題
 - ・広報、PRの方法
 - ・新規開拓や必要な方への参加
 - ・継続訪問のためのアプローチ
 - ・開催内容の整備
 - ・認知症地域支援推進員（包括支援センター）との連携
7. 事業計画
 - ・認知症カフェの周知
 - ・さぼ一た一ずくらぶ（ボランティア）との連携

< さぼ一た一ずくらぶ「Heart」 >

1. 構成メンバー 森山玲香 太田千尋 畠山早紀子 粟嶋緑 今光子 齋藤美子
福原のぞみ 須藤雅子 佐藤栞
2. 目的 地域社会、世代間交流の促進、法人の事業の理解と相互、共助、自助の支援（地域貢献）
3. 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日 H30/4/1～H31/3/31
4. 内容
 - ・さぼ一た一ずくらぶ「Heart」概要整理
 - ・周知活動計画
5. 成果

- ・さぽーたーずクラブの活動実施に向け、規約、会員登録、年間活動について検討し、詳細を決定。
- ・周知に関するチラシ、パンフレットを作成。また、周知活動の一環としてイベント開催を計画。法人の行事の際、家族や関係者に内容紹介の周知活動。

6. 課題

- ・広報の展開方法の計画不足
- ・外部専門職への協力依頼
- ・受け入れ時の内部体制の整備
- ・特典内容の拡大と内容整備

7. 事業計画

- ・さぽーたーずクラブ会員登録から活動当日受け入れまでのスムーズな実施体制整備
- ・外部協力者の拡大